

センターからのお知らせ

秋田県南部男女共同参画センター運営事業

第2回センター利用者懇談会

日時 平成30年1月24日(水) 13:30~15:00

会場 南部ハーモニープラザ(秋田県南部男女共同参画センター) オープンスペース

登録団体代表者のみなさまとセンター職員が話し合い、そのご意見をセンター運営に反映させることを目的として開催します。たくさんのご参加をお待ちしております。

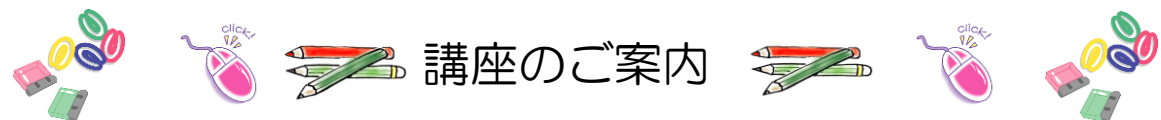
秋田県南部男女共同参画ネットワーク業務

第2回地域連携ネットワーク会議

日時 平成30年2月21日(水) 13:30~15:00

会場 南部ハーモニープラザ(秋田県南部男女共同参画センター) オープンスペース

南部男女共同参画センターと市町村、あきたF・F推進員、ハーモニーネット団体が相互に連携を図るため、情報交換・意見交換をすることを目的に開催します。



講座のご案内

団体・グループ等の活動支援のための研修会

笑いヨガ ~東成瀬女性のつどい~

日時 平成30年2月9日(金) 10:00~11:00

会場 やまゆり温泉ホテルプラン <<雄勝郡東成瀬村椿川字柳沢 39-7>>

男女共同参画社会づくり基礎講座

アサーティブ・コミュニケーション

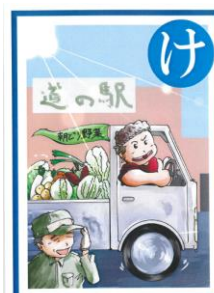
日時 平成30年2月20日(火) 13:00~15:30

会場 大仙市健康福祉会館 <<大仙市大曲通町1番14号>>

お問合せ 南部男女共同参画センター 0182-33-7018



今月の男女共同参画かるた



① 道母軽のちトラで出動

②

編集後記

あけましておめでとうございます。2018年もいよいよスタート。今年はどうな一年になるのでしょうか。毎年、年初めには、目標をたててはいますが、年末には何の目標を立てたかすら覚えていない、ダメダメな私です。(汗) あるスポーツ選手の言葉がありました。

「目標は今の自分でも頑張れば実現できるターゲット。夢は今の自分では頑張っても不可能なターゲット。」「子どもだけでなく大人が新たに素晴らしい夢を持つことが出来れば世界はもっと素晴らしい」とのこと。夢も目標もごちゃごちゃにしていた私。今年も明確な目標と、新たな夢をもって一年を笑顔で過ごしていきたいと思ひます。(国安)

【きらめき】は、当センター・ホームページでもご覧いただけます。ホームページでしか、見ることでできない【きらめきHP版】もございます。フルカラーで見ることが出来ますので是非ご覧ください。(http://www.akita-south-jender.org/)

あなたの“いきいき”応援します。



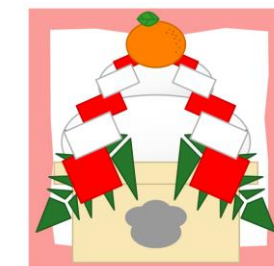
発行 2018年1月

秋田県南部男女共同参画センター
(南部ハーモニープラザ)
〒013-0046 秋田県横手市神明町1-9
TEL.0182-33-7018 FAX.0182-33-7038
http://www.akita-south-jender.org/
E-mail sagec-7002@abelia.ocn.ne.jp

秋田県南部男女共同参画センター通信★第95号

『新年のご挨拶』

秋田県南部男女共同参画センター長 藤原恵美子



新年あけましておめでとうございます。

皆様には、日頃から男女共同参画センターの事業につきまして、ご理解ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、「女性活躍推進法」が施行され早や2年3ヶ月が経過しました。女性の就業率は上昇し、女性が職業を持つことに対する意識も、女性のみならず、男性を含め社会全体として変化してきたこともその背景にあると思われまふ。しかしながら、主要産業や多くの地域において女性管理職は依然として少なく、課題分析とその解決が急がれるのではと思ひます。

特に、少子高齢化により、仕事と家事、育児、介護等との両立のニーズが高まる中、女性がより活躍するためには一人ひとりの実情に応じた就労が可能となるよう、多様で柔軟な働き方の選択肢を増やすことが必要であると思われまふ。このようなことから、多くの女性達は柔軟な働き方が出来る非正規雇用を選択されています。

「男は仕事、女は家庭」という、昔からの意識が大変根強く、女性にとっては仕事や活動への選択が狭く、活躍するにあたっての妨げになっていると思われまふ。家事、育児、介護等がずっしりと肩にかかっている状況では、子供を産むことへの躊躇があり、このことが少子化の一因になっているのではないかと考えられます。

「なぜ男女共同参画社会の構築を目指すのか?」ということも、これまでも様々な組織の会合等で提案されているにも関わらず、なかなか状況に好転の兆しが無いと感じるのは私だけなのかと大変寂しく思ひます。

2018年、新しい年になりました。今年こそは、少しずつでも明るい光りを感じられるような年になり、そして、皆様にとっても幸多き年でありますようにと願っております。

本年も皆様方からのご協力を頂きながら、皆様にとって居心地の良いセンターを目指しスタッフ一同頑張っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

◆◆◆ 平成29年度 11月・12月の事業報告 ◆◆◆

団体・グループ等の活動支援事業

美郷町コミュニケーション講座「健康体操」を実施しました。

11月21日（火）美郷町住民活動センターにおいて、オリジナルスマイル研究所代表の小山田聖子さんを講師にお迎えし、「健康寿命を延ばしいきいき生活を送りましょう」と題し、「美郷いきいき大学」約100名の皆さんと、健康体操を行いました。

歌いながらリズムに乗って足首を動かす体操は、数を数えるよりも楽しく苦にならず、座ったままで気軽にできました。ジャンケン足し算ゲームはお隣の



方との交流もでき、人数が増えると頭がフル回転し、終始笑いの絶えない楽しいゲームでした。家に帰ってもパートナーやお孫さんと楽しめそうです。普段はゆっくりな動きでも、出来ることはテキパキとすることを心掛ける。深呼吸するだけでも十分な運動となり代謝が上がるので、身体が温まり安上がりで毎日出来る。などたくさんの学びがありました。この日は朝から大雪に見舞われ寒い一日でしたが、心身ともにポカポカと温まる一時間を過ごしました。（井上）



地域サポーター養成講座

地域サポーター養成講座（横手市）を開催しました。

11月28日（火）、能代ミュージカルキッズ代表の今立善子氏をお迎えし、「明るく生きること」と題して一人芝居と講演をいただきました。会場となった横手市増田体育館には約80名の参加をいただきました。前半の40分は、老婆が空き缶を拾いながら街を歩き、様々な子や親の関係性について独り言を語る芝居があり、後半の40分は、講師自身が幼少期に受けた不遇な体験と、それを乗り越えこれからも生きていこう！という、強くそして輝いていたい願いのこもった講話を戴きました。

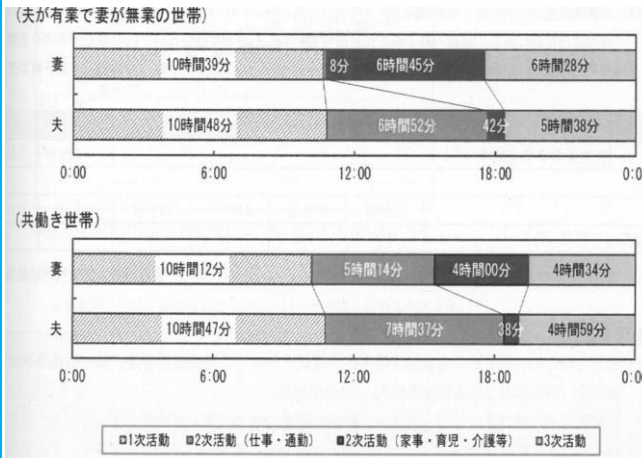


受講者のアンケートには『一言一言が身にしみる内容で感激した』『命懸けで人の為、世の為生きている人々、愚痴ばかり言っている人々、人を羨んでばかりいる人々、人を人とも思わない人々、様々な生き方のある世の中でどのように人生を全うする事がいいのか、考えさせる講座でした』そして、『人は人なり、生命のあるもの全て尊い命であることを再確認した』など、感謝と感動のコメントを多数いただきました。最後のお話の中で、動物のサイの親は、やがて来る乾季に備え、子ども達が飲み水に困らない様に穴を掘るという話が特に印象的でした。（小松田）



☆男女共同参画関連用語☆ ワーク・ライフ・バランスとは??

「仕事と生活の調和」の意味で、働きながら私生活も充実させられるように職場や社会環境を整えることを指します。日本では人口減少社会の到来や少子化の進展を踏まえ、次世代の労働力を確保するため、仕事と育児の両立や多様な働き方の提供といった意味で使われることが多いです。ただ日本では依然、女性の約7割が第1子出産後の半年間で離職するなど、ワーク・ライフ・バランスのための環境づくりは遅れています。育児休業明けにキャリア・ダウンしない仕組み、いったん離職した後に復職する仕組み、配偶者の転勤や子育てに配慮した柔軟な勤務制度、出産・育児を支援する多様な施設の整備など数多くの課題が指摘されています。



「1次活動」睡眠、食事のような生理的に必要な活動
 「2次活動」仕事、家事のように社会生活を行ううえで義務的な性格の強い活動
 「3次活動」とは、これら以外の各人が自由に使える時間における活動

左のグラフは本県の夫婦の生活時間です。片働き世帯はもちろん、共働き世帯においても、家事は妻が行うという性別役割分担の実態が見られます。共働き世帯は、妻の家事・育児等に関わる時間が4時間00分に対し、夫は38分。妻が仕事を始めても、夫の家事・育児への参加は増えることはなく、「夫は仕事」、「妻は仕事と家事」という「新・性別役割分担」が生まれていることが分かります。女性の社会進出が言われている現在、家庭と仕事を両立していくためには、パートナーの協力があることが大切です。

資料出所：総務省「社会生活基本調査」

登録団体ご紹介

わくわく科学工房

代表 石橋 研一さん

『わくわく科学工房』は、平成28年8月に「学校の授業以外でも子どもたちが気軽に参加できる実験やものづくりの機会があれば」「理科好きの子どもを育てたい!!」との思いから、立ち上げた団体です。主に退職した理科教員で構成されており、現在20名活動しています。団体名の『わくわく科学工房』は、関係者と参加者が共に「わくわくする気持ち」と、実験やものづくりの活動を通して講師も参加者もアイデアが次々に「湧く」という意味を掛けて命名されました。子どもの理科好きを育てるためには、小さい時に親子で理科に興味、関心をもってもらう機会が大事になります。体験を通して科学の面白さに触れたり、遊びを通じて、かつ、感動を通じて、学ぶことの楽しさに触れることが大切です。会員は各々、保育所や介護施設を訪問したり、校外学習などの授業の手伝いをして、科学の楽しさを伝えています。年に一度、「わくわく科学実験室」として、会員全員参加の体験型イベントを開催しており、沢山の親子連れが訪れ、実験を楽しんでいます。

※登録団体の紹介にあたり、南部男女共同参画センターにて、横手高校定時制の取材に同席させていただきました。



『わくわく科学実験室』の様子



取材の様子